

○空き店舗を活用した優良事例 〈帯広まちなか「商」学校（帯広市）〉

■事業開始の経過

「帯広まちなか『商』学校」は、十勝総合振興局管内の帯広市で行われている取り組み。

中心市街地の空き店舗を活用し、令和元年10月に帯広商工会議所が開設した。

商工会議所では以前から、空き店舗を活用する新規開業者に家賃補助を行ってきたが、近年は制度の利用者が減少傾向にあった。

また、夜間営業を中心とした飲食店の出店は活発だったが、昼間に営業をする飲食店や小売店は新規出店が少なく、既存店も減少する一方であったことから、新たに事業を立ち上げることにした。



〔PR チラシ〕

■事業の特徴

この事業は、中心市街地の空き店舗を商工会議所が借用し、「研修生」として受け入れた新規開業者がテナントとして出店し、3年半の間、実際に店舗を営業しながら記帳や確定申告書の作成指導、補助制度の活用法や金融機関からの借入等、経営のノウハウを伝授するもの。

■事業の目的

今まで行っていた開業時の家賃補助だけではなく、商工会議所の得意分野である経営指導をセットにすることで、新規開業者を育て、支援終了後の安定した経営に結び付けたいと考えている。

空き店舗の活用を希望する新規開業者は多いが、賃料の交渉で出店を断念するケースが多い。一方、空き店舗のオーナーは、営業経験が無く素性のわからない新規開業者に物件を貸すことはリスクが高いと考え、値引き交渉に応じることは少なかった。

しかしながら、この事業では、商工会議所が借主となるため、新規出店希望者は物件探しに苦労する必要はなく、空き店舗のオーナーも安心して物件を提供することができる。

また、事業を通じて育成した研修生が独立する際には、商工会議所が人物保障できるという利点もある。



〔帯広まちなか「商」学校〕

■店舗の特徴

活用した空き店舗はアーケード商店街「帯広広小路」にある3階建てのビルで、以前は喫茶店が入居していた。

現在、ビルの1階には研修生の飲食店「jiru jiru-pantry (ジルジル・パントリー)」が出店

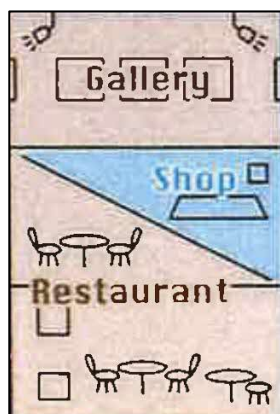
しており、スープやクレープ等を提供している。

2階は期間限定で営業が体験できるチャレンジショップのスペースであり、現在は整体業が営まれている。

3階はギャラリースペースの「まちなかshow ラウンジ」として、様々な展示会を開催しており、ギャラリーと店舗の相乗効果で、新たな集客が生まれている。



〔1階の飲食店〕



〔3階建ての店舗を効果的に活用〕

■出店の効果

1階の研修生の店は、クレープを扱うため女性に人気で、価格も安価であるため、特に若い世代から支持を得ている。

営業開始から数か月経過したが、SNS等での口コミにより、大幅に来客が増えている状況。

また、1階の客層に合わせ、3階のギャラリースペースでの展示会は話題の若いクリエイターの企画を中心に開催しており、当初の狙いどおり、ギャラリーの来場者が1階の店舗に立ち寄りといった、相乗効果で売上が伸びている。

展示会は数か月先まで予定が埋まっており、出展希望者からの問い合わせも増えている。

これまで、若い世代が来ることが少なかった商店街の新たな客層の獲得に繋がっている。

■課題・今後の展開

現在の研修生が独立するまでの間は、新たな研修生は募集しない予定だが、2階のチャレンジショップのような短期の出店体験ができる仕組みを発展させ、ホコテン会場等で1日限定の店舗運営を経験できる「ワンデイ『商』学校」の実施も検討している。

事業が好調なことから、他の空き店舗のオーナーから物件を活用してほしいといった問い合わせも増えており、将来的には、新規開業者と空き店舗をマッチングするような仕組みを作りたいと考えている。

まずは研修生の創業を応援し、継続して多角的に支援していくことにより、中心市街地の活性化に繋げていきたい。



〔3階のギャラリースペース〕

取材先

■帯広まちなか「商」学校

帯広市西2条南8丁目広小路1区

TEL : 0155-28-4774 (帯広商工会議所 中心市街地活性化推進室)